

句会 平成三十年八月ぎんれい

溜池のいまは隠沼芹の花

主宰 細野恵久 福祉三期

蝉啼くや踏絵に残る草鞋跡

増田和子 食文一期

高齢者いじめ尽せる極暑かな

改正節夫 国際三期

山門の声なき阿吽蝉しぐれ

三枝邦光 美工五期

國境の大河超えゆく霧の中

國永靖子 音文六期

追肥に袖口しとど芋の露

猿橋二三雄 福祉八期

ひげ面が日傘をさして大股で

加藤善巳 美工八期

氣にとめし女に遇ひけり溽暑なか

太田 實 国際十期

さらさらとコピー紙の出る夏真昼

大下絹子 国際十五期

一草も戦がぬ知覧終戦日

中村建生 国際十五期

蝉しぐれ予約の歯科へ急かさるる

藤本武子 国際十五期

カテゴリー心を貫く溽暑か

山下 進 国際十五期

米朝の芸談を読む早空

許斐國照 食文十五期

蝉しぐれ平成なれや次の代も

沖本死辺子 国際十七期

遠き日の空蝉の汽車ごっこかな

香春早苗 国際十七期

大花火彼方に朱き火星あり

仲田慎輔 国際十七期

初蝉に巫女らの箏音とまる

中村富美子 国際十七期

逞しき蝉の声降らす老大树

小栗恭子 健福十八期

船鋒や人波分けて取り舵切る

潮江敏弘 健福十八期

白蓮の開かんとして朝の靄

野見山剛 健福十八期

耳鳴りの同じ音なりみんな蝉

大山吉春 国際十八期

遠花火シネマめきたる別れかな

今井義和 美工二十期

職退きし夫のゐる午後あぶら蟬

尾崎育久 美工二十一期

父のこと母のことやら盆用意

黒木早苗 食文二十一期

這ふややを皆なではやす夏座敷

宮脇暁美 食文二十一期

夾竹桃昔日の狂気が馳せ巡る

日種 晃 生環二十二期

空蟬を集めし吾子よ祖父は逝く

大歳敏子 健福二十二期

寛解を告げられし日や蟬しぐれ

大田直子 生環二十二期

第二百五十二回ぎんれい句会（八月十日開催）より